



「いつかは読みたい本」第1位、  
「結局、読まなかった本」第1位、ともいわれる『源氏物語』。  
日本古典文学最高峰といわれる魅力を、  
いまこそ紐解いてみませんか。  
昨年の文学講座で大好評だった講師陣が、  
「きっかけをつかめなかったあなた」を“物語の沼”へご案内いたします。

2024

9月7日

■第一香:紫式部は「平安の山崎豊子」だった！

9月14日

■第二香:源氏物語 社会と権力

10月5日

■第三香:和歌から見た源氏物語 I

10月19日

■第四香:和歌から見た源氏物語 II

11月16日

■第五香:源氏物語へのアプローチ

～最強の現代語訳と入門書は何か～

いずれも土曜日14:00～16:00

講師と内容の詳細は、  
裏面をご確認ください。

■会場/定員 :

- ①大和市文化創造拠点シリウス6階  
大和市生涯学習センター 601講習室/先着50名
  - ②サテライト会場 : 市民交流拠点ポラリス/先着10名
- ※サテライト会場についての詳細は裏面をご覧ください。

■対象 : 大和市内在住・在勤・在学の方

※市外の方は定員に空きがあれば、7/27(土)から申込みを受け付けます。

■参加費 : 2,000円(全5回分)

学生の方は半額(※学生証をお持ちください)

※初回にお支払いください。返金できません。

■持ち物 : 筆記用具

■申込 : 7/20(土)10:00～ 受付開始

お電話または 6 階生涯学習センター窓口へ

「きっかけをつかめなかったあなた」のための  
『源氏物語』入門  
「優雅だけれど赤裸々な世界」へのいざない

お申込・お問合せ 046-261-0491

①シリウスでの  
申込はこちらの  
QRからも！



※ 天候や交通機関の運行状況及びその他不可抗力により、開催が中止となる場合がございます。

※ 駐車場の数に限りがありますので 公共交通機関でご来場ください。

主 催 | やまとみらい(大和市文化創造拠点等 指定管理者)/大和市生涯学習センター

YAMATOMIRAI  
イベント情報サイト



# 「きっかけをつかめなかったあなた」のための『源氏物語』入門 ～「優雅だけれど赤裸々な世界」へのいざない～

すけがわ こういちろう

**助川 幸逸郎 氏**  
東海大学 文化社会学部 /  
文芸創作学科 教授

1967年東京生まれ。文芸評論家、東海大学教授。頼まれれば、どんなジャンルの原稿でも執筆する「文筆百姓」。  
主な著書に『謎の村上春樹』(プレジデント社)・『小泉今日子はなぜいつも旬なのか』(朝日新聞出版)・『つたえるエッセイ』(共著 新泉社)・『教養としての芥川賞』(共著 青弓社)など。現在、『源氏物語』についての大部な研究書と、古典文学入門書を並行して執筆中。

さとう きよたか

**佐藤 清隆 氏**  
相洋高等学校国語科教諭  
横浜市立大学大学院博士課程修了

主な論文に「源氏物語続編の光源氏」(『横浜市立大学国際文化研究紀要』第13号)・「源氏物語句宮三帖を読む」(『相洋中高等学校紀要』第12号)・「国語教育におけるテキスト論の重要性と〈ことば力〉について」(『相洋中高等学校研究紀要』第14号)・「日本文学研究におけるテキスト論受容史古典編」(ひつじ書房『国語教育とテキスト論』)など。

さとう ひとみ

**佐藤 瞳 氏**  
東海大学文学部日本文学科他、  
非常勤講師

専門は『源氏物語』を中心とした平安王朝文学、古典教育、短歌。著書に『くずし字で読む『百人一首一話』』(共著 武蔵野書院)、主な論文に「受動態としての柏木の〈脚〉—『源氏物語』若菜巻の垣間見と密通—」(『湘南文学』54号)・『源氏物語』「野分」巻の垣間見一紫の上の〈眼〉と物語の「感覚」—」(『物語研究』8号)などがある。

## 9/7 第一香:紫式部は「平安の山崎豊子」だった! 担当:助川 幸逸郎 氏

長編物語は、「現実には起こらない出来事」を描くジャンルでした(竹から子どもが生まれたり、天人が空から降りてきたり)。しかし、『源氏物語』は、「史実を踏まえたセミ・ノンフィクション」です。紫式部はなぜこのような「前例のない物語」を構想したのか。今回は、そこに秘められた「野望」を解きあかします。そしてそれを糸ぐちに、この作品が文学史上で例外的な地位を得た理由にせまります。

## 9/14 第二香:源氏物語 社会と権力 担当:佐藤 清隆 氏

源氏物語は、治世四代・約八十年にわたる時の流れを描いた想像上の王朝物語です。紫式部はこの物語で四百人を超える登場人物を創作し、男女の生のあり方と貴族社会の矛盾を問い続け、人の心の機微を丁寧に描写しました。千年前の日本人がどのように世界を認識し、どのような虚構の物語を生み出したのか。社会と権力をキーワードに源氏物語を読んでいきます。

## 10/5 第三香:和歌から見た源氏物語 I 担当:佐藤 瞳 氏

光源氏と正妻・葵の上との間に生まれた息子である夕霧は、色好みの光源氏とは対照的に真面目だと評され、幼馴染の雲居雁のことを一途に思い続けています。その夕霧が「野分」巻ではさまざまな女君を垣間見してしまいます。普段ならあり得ない垣間見をしてしまった夕霧は、その後の場面において、どのような歌を詠むのでしょうか。「野分」巻における夕霧の和歌とその場面について検証します。

## 10/19 第四香:和歌から見た源氏物語 II 担当:佐藤 瞳 氏

「玉鬘十帖」では光源氏は中年にさしかかり、六条院と呼ばれる邸に女性たちを集めて住まわせています。その六条院に後から加わった玉鬘は、光源氏のライバルである内大臣(昔の頭中将)と夕顔(光源氏のかつての恋人)の娘ですが、訳あって九州で育ち、成長してから京に戻ります。九州の田舎で育った玉鬘は、六条院の一員になるにふさわしい教養やたしなみ——つまり和歌の能力を有しているのでしょうか。和歌を通して玉鬘と光源氏のやりとりを読み、当時の和歌の重要性を見ていきます。

## 11/16 第五香:源氏物語へのアプローチ～最強の現代語訳と入門書は何か～ 担当:助川 幸逸郎 氏

『源氏物語』にはさまざまな入門書や解説書があります。これからこの物語に親しんでいくうえで、そのなかのどれを選べばいいのか。この点をていねいに検証していきます。谷崎潤一郎や角田光代などの「代表的な現代語訳」に触れる予定。この物語を原作とする漫画や、映像作品についても解説します。

**この講座は、サテライト受講も選択できます。**

【サテライト受講とは】

メイン会場で行っている講義の様子を、別会場のスクリーンに映して中継をご覧ください。現地に行かなくても受講できます(質疑応答も可能です)。

**市民交流拠点ポラリス(Room2会議室他)**

■申込:電話(046-274-4361)または窓口、WEB申し込み可。

■定員:先着10名 ■対象・参加費:表面記載内容と同じです。

②ポラリス  
での申込はこちらの  
QRからも!

